島根県教育委員会教育長（県教委危機管理対策本部長）談話

平成 21 年 7 月 21 日

このたび、島根県内では初めて、公立学校の児童が新型インフルエンザに感染していることが確認されました。

関係する児童及び保護者におかれましては、療養に専念され、一刻も早く快癒されることを願っております。

新型インフルエンザは、国内で感染拡大が続いており、県内でも今後、感染者数が増加していくことは避けられないものと考えられます。しかしながら、新型インフルエンザの症状は、通常の季節性インフルエンザと類似しており、これまで国内で重症化した事例は一件も発生していません。

保護者の皆様をはじめとして学校関係者、県民の皆様におかれましては、冷静に対応していただきますよう、お願いいたします。

今回の事例は、急速な感染拡大につながりかねない端緒を早期に探知するために実施した「クラスターサーベイランス」（集団探知）が有効に機能したことを示すものであり、新型インフルエンザの感染を早い段階で把握できたことはよかったと思います。

小学校はすでに夏休みに入っており、市教育委員会及び学校として採りうる措置は限られると思いますが、保健所との連携を図りながら、感染の拡大防止に御尽力いただくことを期待いたします。

島根県教育委員会としては、今後とも、学校と保健所との連携が円滑かつ迅速に行われることにより、集団感染の端緒を早期に探知し、的確な対策に結びつけていくことができるよう、学校関係者に促してまいります。